

’11年度 卒業式特集



①卒業式第二部 合唱構成詩 ②先輩への花道 ③先輩へ思いを込めた在校生司会
④合唱構成詩での生演奏 ⑤卒業式第一部 卒業証書授与 ⑥お疲れ様、そして卒業おめでとう(卒業式実行委員メンバー)

日本語で“卒業”と訳される、英語の“graduation”。

この言葉は「終わること」や「出て行くこと」を表しているのではなく、「ある段階から一段高い段階へ進むこと」を意味している。

卒業とは終わりではなく、人生のステージを一つあげて、新しいレベルで生きてゆくことなのだ。

顔を上げ、前を向いて、胸を張って歩いて行こう。

同朋高校の3年間で経験したつらかった事、楽しかったこと、悔しかったこと、嬉しかったこと、全てがこれから生きてゆく上での力の源となる。

新たな「はじまり」を迎えた376人の未来に、幸多からんことを。

2011年度 震災ボランティア 報告

3月11日の東日本大震災後、生徒会では愛知ボランティアセンターを通じて現地ボランティアに取り組んで来ました。

第一回

6月10日(金) 18:00～12日(日) 8:00
教員:1人 生徒 男子:6人 女子:4人
石巻市寄磯小学校での炊きだし 気仙沼瓦礫撤去

震災後ちょうど3ヶ月経っていましたが、壊滅状態の集落にこれが現実なのかと大きなショックを受けました。自分達に何ができるかと呆然となりながらも、炊き出しでつくった焼きそばを笑顔で受け取ってもらえ、行ってよかったと思うことができました。



第二回

7月22日(金) 18:00～24日(日) 8:00
教員:3人 生徒 男子:6人 女子:5人
寄磯小学校での炊きだし 子どもの遊び相手

4ヶ月経っても現状はそれほど回復していないことを目の当たりにし、また夏になってひどくなった「におい」に言葉を失いました。寄磯では現地の子どもともすぐ打ち解けることができ、石巻女子商業高校の遠藤留美さんとも知り合い文化祭に来て話をしてもらうことが約束できました。



第三回

12月22日(木) 18:00～25日(日) 8:00
教員:2人 生徒 男子:2人
石巻女子商業高校の生徒会のみなさんと交流
十八成浜での炊きだし(餅つき)

山と積まれた瓦礫と一面に広がる更地に復興が並大抵ではないと感じましたが、石巻女子商業生徒会役員のみなさんの前向きな姿勢にこちらが励まされる思いでした。十八成浜(くぐりはま)では現地のおじいさんが涙を流して喜んで餅つきに参加してくださいました。



第四回として3月23日～25日を予定しています。

Schedule
〈行事予定〉

4月					5月				
5	木	在校生登校日	16	月	フレマン結団式、EP(美術)説明会	12	土	PTA総会・学級懇、Aus短期留学募集説明会	
6	金	入学式	17	火	フレッシュマン合宿(～19(木))	14	月	午前授業	
7	土	始業式	19	木	2・3年遠足	15	火	中間考査(～18(金))	
9	月	3年進路ガイダンス	25	水	看護医療系ガイダンス	19	土	自由選② かげの会	
10	火	AP説明会	27	金	見真の日	25	金	体育大会	
13	金	クラブ総会、EP(英語)説明会	28	土	PTA常任委員会、自由選①	28	月	見真の日	

「伝えたい」

それぞれの思いが
一つになった卒業式



2011年度

合唱構成詩「はじまり」

入学式

校門を抜けて見上げると校舎の窓いっぱい張り出されたたくさんの「名前」。自分の名前を見つけて、スタートラインに立っていると実感した。隣に座った子に、ドキドキしながら声をかけた。初めての友達は、今の親友。これから始まる高校生活に胸躍った入学式だった。

フレッシュマン合宿

…略…

日常

…略…

部活

今まで度も勝ったことなんてなかった。初勝利を上げたときチームが一つになったって思ったんだ。みんな泣いてたね。いつもの悲しみの涙ではなく喜びの涙へと変わった。

「努力この言葉を好きになったのは、大切な仲間と先生と出会いたくさんの汗と涙を流したからだ。

落馬をしたり、馬が指示を聞いてくれないときもあった。でも、馬と心が通じ合ったとき、毎日大変だった世話や苦勞も全部忘れられた。

協調性がなくてたくさんぶつかったけど、その分いいものが出来たと思う。メリハリがなく、しまりもない部だったけどあのメンバーで作った舞台は私の誇り。

たくさん泣いて笑ってぶつかった仲間。世界アツイがむしろな先生、目標の県ベスト4には届かないベスト8で終わってしまったけれど、最高のチームだった。私のこの三年間を表すと、サッカー青春。マネージャーを三年間続けることが出来たのはみんなのおかげ。本当はみんなを支えなきゃいけないのに、一生懸命練習をしている姿を見ると支えられたよ。

県大会は一回しかいけなくて、私達の代で県大会常連の伝統を崩してしまった。先生、先輩、親の残念そうな悲しい顔は本当に忘れられない。最後の大会。県大会には行けなくて皆で泣いたけど、私は後悔してないよ。

最後のポーズまで必死に涙をこらえた。終わったとき、心にぽっかり穴が開いたみたいだった。もうこれで最後だと思うと涙が止まらなかった。ラストダンス、みんな今まで一番輝いてたよ。一人の仲間の言葉が心に残った。試合に出られないキャプテンなんて甲子園にだっていない。恥ずかしくなんかなくて。これを言われた時、ものすごく気持ち良かった。

家族よりも一緒にいる時間が多かった部活のメンバー。だからこそ、嫌な部分もたくさんあった。けど、それを皆で乗り越えてきたからこそ本当の家族みたいになれたよね。

自主活動

委員長としてみんなの前に立つ責任が、すごくプレッシャーに感じた。こんな情けない私にみんなは「君が委員長でよかったよ。」と言ってくれた。それだけで、今までの辛いことが全てむくわれた気がした。

愛知県高校生フエティバルの「群舞」。たくさん的高校生で私学も無償につて訴えた。いろんな学校の制服が一つになって踊っている姿は忘れられないと思う。

普通科

…略…

商業科

…略…

音楽科

…略…

修学旅行

行く前からわくわくしていた。自分達でしおりまで作った。飛行機から降りた瞬間デジコンMAX-1とにかく知っている琉球語を使った。

平和学習。ガマの中は真つ暗だった。あんな暗闇、初めてで、自分一人しかないみたいで不安になった。ガマの外に出たとき、光がこんなに眩しくって暖かいつてことを実感させられた。

民泊で行った伊江島のおかあと別れるときは本当に寂しくて泣いた。「さようなら」じゃなくてまた会えるといいねの意味が詰まった「いつてらっしゃい」で見送ってくれた。伊江島にもうひとつの家族ができた。

沖縄の海でのカヌー！「いつそのこと飛び込んじゃおうかな？」って思うほど海は輝いていた。海辺で拾った貝殻でオリジナルのネックレスを作った。それを見ると、今でもあの景色、あの香りが鮮明によみがえる。

沖縄ワールドでひいた恋愛のおみくじ。結果は大吉!! なにが良いことあるかなって思ってたら今年彼氏ができた。ありがとう、沖縄！笑

私達の修学旅行は音楽の都ウィーン。初めての海外：行く前はドキドキした。

ウィーンは町自体が芸術作品のようで、絵本の中に迷い込んだみたいだった。見るものすべてを写真に収めたくて、とにかくいっぱい写真を撮った。

後輩へのメッセージ

私たちの後ろに黙ってついてきてくれた後輩達へ。引退はあつという間だよ。「次頑張る」「じゃなくて、今を精一杯頑張つて後悔しない日々をおくつてね。

逃げ出したくなることやつらいこと、これから沢山経験すると思う。だけど、その経験が最高の楽しさに変わる時が必ずやってくる。

自分たちが引退し、後輩たちが先輩へ。次はお前らの番だ。俺たちのチームに負けないくらいチームを築きあげよう。

進路

進路希望の紙を提出する前日まで、二つの学校で悩んでいた。どちの学校がいいんだろう？ オープンキャンパスのことを思い出したり、何度も資料を見比べた。

指定校推薦が欲しかったのに内申が少しだけ足りなくてももらえなかった。毎回毎回、定期テスト頑張ったのに…。もらえなかった事実を受け入れるのに時間がかった。

悩みに悩んでやつと自分のやりたいことが見つかった。でも、最初はその夢を先生や親に話すのが恥ずかしくてすぐに言い出せなかった。一私、警察官になりたい！」

音楽の道へ進むこと、最初は親に反対されていた。それでも、「自分には音楽しかない」という気持ちと真剣さが伝わり、応援してくれるようになった。

就職に向けての面接練習。先生たちは何度も快く練習相手を引き受けてくれた。人生を決める時も過言ではない時に、丁寧に何度も私たちにつきあってくれた先生たちの存在はとて大きく力強いものだった。

先生

もう担任じゃないのにいつも気にかけてくれた先生。悩みを聞いてくれた保健室の先生。同朋の先生は生徒と仲が良くて、距離が近いから

マウトハウゼン強制収容所では、実際使用されたガス室に入った。苦しみもがいた人たちがつけた爪あとがコンクリートに残っていて、伝わってくる悲慘さに涙が止まらなかった。

収容所から出て見上げた青空はすくきれいで、どんなに小さなことにも感謝しながら生きて行きたいと思った。

体育大会

Tシャツデザイン賞なし。デザインはA4サイズ。ずっと楽しみにしていたことをできなくなつてやる気がなくなった。先生に抗議をしたけど聞いてもらえなくて悔しかった。

やるしかないから出来る範囲で精一杯のデザインを考えた。Tシャツデザイン賞があったら絶対私たちが位だったな。

縦割りでの年生のいない群団になった。人数が少ないうから、ダンスもまとまりやすいだろうと思つた。でも実際は違つた。ダンスには迫力が無い。声も他の軍団より小さい。何もかも他の軍団より倍の力でやらなければならなかった。正直、辛かった。

私達の腕の見せ所の部活対抗リレー。去年は3位だったのに、自分達は4位…。アンカーがゴールしたとき、みんなで抱き合つて泣いた。「ごめんね…。」ってみんなで言い合つたね。

かれるまで声を出した。一週間ずっと男みいたな声だった。これが私の体育大会の勲章。

文化祭

文化祭期間中、どのクラスの子たちも練習していたり準備をしていたりした。あのにぎやかな雰囲気ですごく好きだった。

夏休みの話し合いのとき、ほとんど人が来なかった。時間がない！という自分の気持ちだけが前に出た。いくらクラスの皆に呼びかけても全く聞いてくれなかった。何で協力してくれないの？どうしたらいいのかわからなかった。

最初のころはやる気なんてなかった。「自分一人がやらなくてもわかんないや」って言つて練習をサボつた。でも、本番が近づくとつれて皆の焦りが伝わり、自分もやらなきゃ！って思うようになった。

こそ話せることもあった。

学校をたくさん休んだことがあった。担任の先生は休むたびに電話をかけてくれた。その優しさがうざいと思うこともあった。でも先生ののおかげで進級することができた。

先生はいつも私たちと同じ目線で物事を考えてくれて、いつも素直にぶつかってくれたよね。きつと先生に出会ってなかったら、今の自分はないと思う。

先生はとて口うるさくて何でもストリートにいうから傷ついたこともあった。でも、先生の言うことが正しいのはちゃんとわかつた。直接は言えないけど、先生の事、結構好き！

家族

高校受験の時、私は公立に行くつもりだった。けど私立に来ることになってしまった時、私よりもお母さんの方が残念がついてたね。期待にこたえられなくてごめんね。でも同朋での三年間はすごく楽しかったし、悔いはないよ。

朝練で始発の電車に乗る私のためにお弁当を作り、見送つてくれたお母さん。怪我をした時、仕事を抜けてくれたお母さん。泣いて行つてくれたお父さん。わがままを我慢してくれた妹。家族がいたからこそこの三年間どんなにきつい事でも乗り越えることができた。

お母さんが病気でとわかつた時、私には何が出来るんだろう、と考えた。けど退院してきたばかりのお母さんにわがままも、文句もたくさん言つた。本当はきとお母さんが一番不安で辛いのに、絶対に泣かなくなった。お母さんは私の前では、強いお母さんでいてくれた。だから私はずっと笑顔で、いようと思つた。

大喧嘩して私が真夜中に家を飛び出したことあつたよね。そのとき来たメールでお母さんの本音を知つた。涙が止まらなくてこんな迷惑ばつかりかけて何してるんだろうって思つた。

自分がかいてる悩んでいたら、たくさんアドバイスくれる。親友に相談することで、解決することがたくさんあつた。すごく強い支えだった。何度も助けられて、何度も成長させてもらった。

どのクラスにも負けないくらい完成度の高いセットを作った。毎日頭をかかえて間に合うか不安だったけど、当日たくさんのお客さんから絶賛されて必死にやつてきてよかったと思った。受験勉強のために準備や練習にあまり参加できない子が「協力できなかったごめんね」と言つてきた。この子の分まで頑張ろうと思った。

震災

本番前日に白本がガラツと変わった。今まで練習してきたものが全てゼロになつてしまった。当然クラスの皆からは批判の声ばかり。本番前日のな…。それでも、皆夜遅くまで覚えなおしたよね。私は意外と緊張しなかった。でも、本番中主役の子に手を掴まれた瞬間、その子の手が冷たすぎて私まで緊張してしまつた。

舞台が終わつた後のみんなの表情はやりきつたつという笑顔でいっぱいだった。「最高の舞台だったよ！」

実際に話を聞いて想像よりもはるかに大変なことになっていることを知り言葉を失つた。同じ日本でこんなことになっているんだ…。震災について軽く考えてた自分を恥づいた。思った。

じつとしていることが出来ずに、募金活動に参加した。被災地の人たちの力になりたい！笑顔になつて欲しい！と思つた。ボランティアの話が来た時、行こうとしたけど自分達が行くことで逆に迷惑になるかもしれないと思つて、結局行けなかった。今ここで出来ることをやつて行こう。

宮城県にボランティアに行つた私は津波にやられた町を見て何が出来るのだろうと不安になった。焼きそばを手渡したとき、「ありがとう。」という言葉と笑顔に私は逆に励まされた。被災地の未来を少しでも手助けしていきたい。

てひどいことを言つたりもした。それでも一番に私のことを心配してくれたのはお父さん、お母さんでした。たくさん生意気なこと言つてごめんなさい。これからはまだまだ迷惑かけるかもしれないけど、私が大人になったら、世界の親孝行をするからね。

友達

改めて友達って何だろうって考えると難しい。けど、何も考えずに一緒に入れるのが友達なのかな。

放課後、部活に行くのが辛くて相談している時、たえきれずに泣き出しちゃつた私…。そんな私に、思いっきり泣きながら言つてずっと背中をなでてくれたね。

私が失恋して落ち込んでいたとき、サブライズで友達が集まつて元氣付けてくれた。いつの間にか笑っている私がいた。本当に嬉しくていい友達に恵まれたなつて思つた。

何でも話せて気を遣わない男友達。私が元気なとき、そつと声をかけてくれたね。女の子とはまた違つたやさしさが嬉しかった。男女の友情なんて成立しないつて言う人もいるけど、私はこの友情を生ものだと思つてるよ。

友達とけんかしたその日二人で帰つた。隣にいつもの笑顔がなくて悲しくて涙が零れた。次の日の放課後、友達は私の肩をたたいて「ごめんね」と笑つた。

そんなあなたのこと、私は親友だつて思つてるよ。あなたにとつての親友が私だったらいいな。普段は、照れくさくつて言えないけど、いつもありがどう。卒業しても、絶対またみんなで集まろうね。

何でも言い合えて一緒にいると笑いがたえなくて、本当にかげがえのない存在。みんな大好き！この三年間、本当にいろんなことがあつた。そんな思いでいっぱい同朋高校を今日、私達は卒業する。私達の新たな始まり…。それぞれの始まりが素晴らしいものであることを願つて…。私たちがみんなの想いを乗せて…。

「桜ノ雨」合唱

終

◆ 学校長 式辞 ◆

今年は特に厳しい冷え込みに襲われる日が目立ちます。暦の上では春とはいえ寒い日が続きますが、そんな中でも日差しに春のぬくもりがすかすかに感じられるようになってまいりました。

本日は、同朋高等学校第52回卒業式を挙げるに当たり、笈瀬中学校校長の森岡様、御田中学校校長の井上様、豊正中学校校長の丸子様、そして日比津中学校校長の橋口様に、校務ご多忙の折、卒業式にご臨席賜りましたこと、御礼申し上げます。また、同朋学園の関係者の皆様、PTAの役員の皆様など多数の来賓の方々に、このお祝いの場に駆けつけていただき、卒業生はもとより父母・在校生・教職員一同にとりましてこの上ない喜びでございます。

卒業生の皆さん、あつという間の3年間ではありましたが、君たち一人ひとりの成長の瞬間に立ち会うことが出来たことを大変うれしく思っています。この3年間私たちは、常に励ましの心を含めて寄り添ってまいりました。今日でお別れではありますが、これからの君たちの活躍を楽しみにしています。

また、立派に成長したお子様の晴れの席に同席されます保護者の皆さま方にも、心よりお祝いを申し上げます。これからは人生の先輩として彼らの成長とともに見守っていただければと思います。

表情をみるとひとつの区切りを迎えて実にはわやかな様子が見てとれます。楽しかったことや必死に頑張ったことや感動したこと、逆に勉強する意味や学校に毎日通う意味すら見えず悶々と悩んだ日々。ひょうとしたら後者の方がずっと多いのかもしれません。すべてのことが今日という日を境にして、高校時代の貴重な経験として君たちの今後の人生を下から支える大切な宝物になると確信しています。

私は、勉強であれ自主活動であれとにかく一生懸命取り組むよう、皆さんに繰り返し訴えてまいりました。将来役に立つとかいうことは関係ない。今できることを一生懸命やれば、きっと新しい世界が開けてくるのです。

皆さんはスマートフォンという携帯電話機をご存知だと思います。日本を含めいまや全世界で爆発的に売れているこのスマートフォンを開発したアップルの創業者が、昨年この世を去った。スティーブ・ジョブズというアメリカ人です。彼は20歳のときに自宅のガレージで友人と二人でコンピュータを作り始めてから、昨年56歳で亡くなるまでの間に、マックのコンピュータを生み出し、iPhoneやiPadなど、その斬新で革新的なアイデアと技術力でITの世界を文字通りリードしてきました。

若い未婚の母から生まれた彼は、生まれてすぐある家庭にもまれて育ち、大学まで入学させてもらいました。しかし養父母に高額な学費負担を強いながら、一向に将来のビジョンが描けない自分に嫌気がさして、せつかく入った大学を自分から中退してしまいました。そして大学の授業で唯一面白かった、カリグラフィ、つまり飾り文字やいろいろな書体の勉強になぜか魅力を感じ、退学して時間だけはおろか、あつたのでそれに没頭しました。生きていく上では何ら実践の役に立ちそうもないことでしたが、それが10年後自らマッキントッシュコンピュータを世に出すときに、その経験をコンピュータに組み入れた。当時、複数の書体を持ち、拡大しても美しさを失わないフォントの技術は、他のどのコンピュータメーカーも発想さえしなかった全く新しいことでした。そのことが、現在に至るまでコンピュータ業界の最先端を歩き続ける大きな始まりの一つであったことは間違いありません。つまり、彼の人生にとっては「寄り道」といえる。

大切にしてほしいと言うことです。命は、今日まで立派に育ててくださった、ご両親からもらった、たつたひとつしかない大切なものである。

昨年の夏、長男の同級生が川の事故で命を落とした。まだ二十歳でした。台風で増水した川へ遊びに行つて起こった事故だと聞きました。お別れの時のご両親の悲しい顔は、想像を絶するものでした。

私たちはあなた方を、ここまで大切に大切に育ててきました。いくつになっても、私たちの大切な宝ものです。そのことを忘れないうで下さい。

先生方、本日こうして卒業していく子供達ではありませんが、まだまだ未熟です。卒業してからも、子どもたちが迷ったときには、暖かく手をさしのべていただけたらと思います。

最後に同朋高校のご発展とご臨席の皆様のご健勝とご活躍をお祈りいたしまして、私からのご挨拶とさせていただきます。今まで本当にありがとうございました。

(卒業生父母代表 豊田有理)

◆ 父母 祝辞 ◆

先生方には大変お世話になり、どれだけお礼を言っても足りないくらいです。子供たちの個性を伸ばし、やる気を引き出して頂き、同朋生らしい、元気な明るい子に成長したのではないかと思います。

同朋高校の先生方は、わが子のもつ優しさを、理解し、生かし伸ばしてくれました。多くの男のお子さんにありがちなように、家ではあまり学校の事を話してくれませんが、毎日休まず通う様子から、目標を持つて生活を送る事が出来ていたのではないかなと思つています。これも、子どもの可能性をうまく引き出して、伸ばしてくれた同朋の教育のおかげです。

また、父母同士が知り合いになれ、仲良くなれる機会を多く作って下さった事も、私にとつてはとても大きなことでした。長男と次男を合わせると6年間、私も同朋に通い、子どもだけでなく、私も成長させていただいたと思つています。本当にありがとうございました。

さて、謝辞の場を借りまして、卒業生の皆さんにお願いがあります。それは、命を



◆ PTA会長 祝辞 ◆

卒業生のみならず卒業おめでとうございませう。保護者のみなさまにお子様のご卒業お祝い申し上げます。生徒たちは入学以来、さまざまな学校行事を通じて私たち親を楽しませてくれました。時に自分一人でも生きていけるような発言をするようになり精神的にも実に頼もしく成長してくれました。お喜びもひとしおのことと思います。

そしてこの間PTA活動にご協力いただきありがとうございます。そして河合校長先生はじめ諸先生方、職員の皆様には多感な時期の生徒たちに優しく、時に厳しくご指導いただきました。おかげをもちまして立派な卒業式を迎えることができました。保護者を代表して心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

そして卒業生のみならず、文化祭やクラブ活動などを通して私たちを楽しませてくれました。また時に親に意見したり反発したり、成績や進路などで悩ませたりして私たちが親を中学生の親から高校生の子と成長させてくれました。皆さんが成長したのと同じように親も成長できました。親を代表して感謝します。ありがとうございました。

さて皆さんはこれからさらに専門的な勉強を積み上げたり、またいろいろな職業に就き活躍されます。中には会社を起したり、お金持ちになる人もいます。しかし仕事の種類やお金持ちかどうかで人の価値を判断することはできません。多くの人が立派だと思ふ人に共通していることは「ありがとう」という機会も言われる機会もたくさんあるということです。

この中には東北ホランテアで出かけた生徒もいます。向こうでよく来てくれたね、ありがとう」と言ってもらい自分も嬉しくなった人います。人間は社会や人の役に立つたときに自分の存在意義を感じ幸せな気持ちになるものです。

この先誰かの役に立ち「ありがとう」と言ってもらったり、素直に言える人になり心豊かに学生生活、そして社会人としての生活を大いに楽しんでください。親はいつまでも皆さんを見守っています。

以上でお祝いの挨拶とさせていただきます。

(PTA会長 梅元泰弘)



LAST HOME ROOM ~ここからが君達の「はじまり」~



301



302



303



304



305



306



307



308



309



310



311



312

私達の「はじめ」。
最後に最高の卒業式実行委員会だった！

311 米満 舞
(当知中学出身)

最初は教室がいっぱいになるくらい人がたくさんいた。日に日に減っていくメンバー。その分残ったメンバーの団結は強くなってきたと思う。それでも、まだまだバラバラのメンバーだった。卒業式を成功させられるのかすごく不安だった。

卒業式が近づいてくるにつれて、一人ひとりの意識が高くなった。「最高の卒業式にしたい」その思いが強くなってきた証だった。その分たくさんぶつかったし、嫌なこともあった。それでも頑張った。これらは、仲間のみんながいたからだ。卒業式が終わって、第一部で泣いてくれた友達、後輩、親を見て今まで頑張ってきたよかったと思った。

最後に団結し、一つになることができた。だからこそ、あの卒業式ができたんだと思う。バラバラでなかなかまとまることもできないメンバーだったけどみんなで創った卒業式は私達の宝物になると思う。それは、私達のためにたくさんさんのアドバイスくれた先生、たくさんさんの拍手で送り出してくれた後輩たち、協力してくれた部活のみんなのおかげ。本当にありがとう！最後に卒業式実行委員会をやった本当によかった！



卒業式を終えてわかったこと

みんなに感謝

205 氏原 真穂
(東海中学出身)

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

今回卒業式実行委員長をやらせていただきましたことは、主役が輝く裏にはそれを支えている照明や裏方という存在があつての輝きがあるということを忘れてはいけないということです。どんなに綺麗で華があつても、支えてくれる存在がなければ真には輝けません。

式の当日に私は、在校生企画でピアノを演奏しました。演奏は前々から決まっていた練習時間がたくさんあつたにもかかわらず、音はずし、御法度である弾き直しをし悔しい思いをしました。しかし、失敗して得たものがたくさんあります。その得たものを忘れぬよう、二の舞を演じぬようにしたいと強く思います。

今回の卒業式で支えて下さった先生方、業者の方々、そして生徒のみなさん、感謝します。本当にありがとうございました。



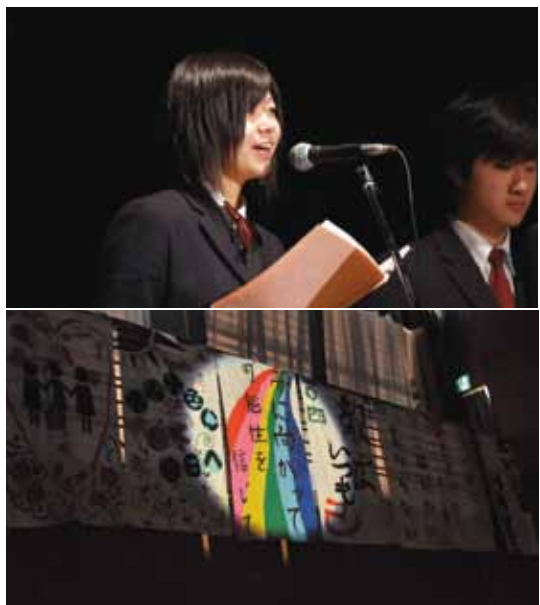
はじめての卒業式

101 宮岡 芹奈
(武豊町立武豊富貴中学出身)

同朋高校の最も大きな行事である、卒業式に初めて参加しました。スケールがとても大きく、とても感動した忘れられない行事になりました。その卒業式で私は司会を務めさせてもらいました。三年生の真横で司会をしていたのでとても緊張しましたが、各クラスの紹介文を順に読んでいたら、どのクラスの文章もとても個性的で緊張がほぐれて楽しく司会ができました。

第一部にあつた三年生企画と在校生企画には心が震えました。「絆」の文字や思い出のスライド映像、構成詩、音響、出演、どれもこれも全部生徒たちで作ったものだと思えて本当に驚きました。また、三年生が歌われた「桜ノ雨」は、聞いていた私も感動して涙が出そうになるほど心に響きました。

同朋高校で初めて参加した卒業式に、今度は私自身が卒業する側になって卒業式を自分たちの手で作り上げたいと思います。



PRECIOUS MEMORIES

